

管内 A 地域の生産性向上を目的とした Ovsynch-CIDR 法の推進とその効果

淡路基幹家畜診療所

○藤本修司 石川貴將 宮本孝明 小西健治
久野尚之 西崎 悟 大平正信 曾賀久征 野口 等

演者らは 2008 年の研究発表において、黒毛和種繁殖牛に対し、分娩後早期に Ovsynch-CIDR 法 (Pro) を実施することによって一年一産の目標を達成できる可能性を示唆し、2012 年の発表でそれを実証した。そこで今回、管内 A 地域において Pro を普及・推進し生産性の向上を図った。

材料および方法

調査期間は 2010 年から 2014 年とし、管内 A 地域の黒毛和種繁殖牛に Pro を実施した。Pro は膣内留置型プロジェステロン製剤 (CIDR) 挿入時に酢酸フェルチレリン (GnRH) 100 μ g を投与し、CIDR を 7 日間留置した後、除去時にクロプロステノール (PG) 0.50mg、その 2 日後に GnRH100 μ g を投与し、翌日に人工授精 (AI) を実施した。

1. 普及・推進方法：2013 年 1 月繁殖和牛農場主を対象に、Pro の有用性を講演し、2014 年 3 月「畜産兵庫 (第 744 号)」誌に紹介記事を掲載した。また、2014 年 4 月人工授精師との勉強会を開催し意思の疎通を図った。普及状況として A 地域の繁殖和牛農場数、Pro 実施農場数、全頭実施農場数、延べ実施頭数を調査した。

2. 繁殖成績：調査項目は 5 年間の平均受胎率 (分娩後開始日数別、開始年齢別)、Pro 全頭実施農場の実施前後および全頭継続実施農場の AI 回数および分娩間隔、2013 年から 2015 年の全農場、未実施農場、一部実施農場、全頭実施農場の AI 回数および分娩間隔とした。

結果

1. A 地域の繁殖和牛農場数は 205 農場で、当診療所シェアは 51.2% (105 農場) だった。2010 年から 2014 年の Pro 実施農場数は 2, 7, 19, 28, 70 農場、全頭実施農場数は 1, 1, 2, 10, 38 農場で、実施頭数は 8, 30, 74, 136, 435 頭といずれも増加した。

2. 分娩後開始日数別平均受胎率は 41~80 日が 77.1% で最も高く、開始年齢別では 2~4 歳が 80.9% で 5 歳以上より高かった。全頭実施前後の AI 回数は 2.3 から 1.2 回に減少、分娩間隔は 432.7 から 362.2 日に短縮した。全頭継続実施農場は 10 農場で AI 回数は 1.3 と 1.2 回、分娩間隔は 364.8 と 368.1 日と維持していた。2013 年から 2015 年の全農場の AI 回数は 1.8, 2.0, 1.7 回、分娩間隔は 437.2, 435.4, 403.8 日、Pro 未実施農場は 1.7, 1.7, 1.5 回および 416, 429.9, 407.2 日、一部実施農場は 1.9, 2.0, 1.9 回および 439.5, 429.7, 420.9 日、全頭実施農場は 2.0, 2.2, 1.6 回および 457.3, 443, 383.6 日であった。

考察

生産性向上を目的に関係機関と連携し、Pro の推進によって A 地域の Pro 実施農場数および頭数は増加した。それに伴い分娩間隔は大幅に短縮した。特に全頭実施農場では顕著であり大きな経済効果が期待できた。また Pro は継続による弊害も認められず、発情発見労力の軽減など付加価値もあり、農場の経営安定化、但馬牛増頭に寄与できると考えられた。